

令和5年度 第1回阿南市教育振興基本計画等策定委員会  
議事録

日 時：令和5年8月28日（月）午後2時から午後3時45分

場 所：阿南市役所6階 604会議室

出席者：委員12名中11名出席（別紙名簿参照）

教育委員会：坂本和裕教育長、林義郎委員、里美文子委員、新居浩江委員、岡本充律委員

事務局： 教育部 市瀬幸部長、学校教育課 阪本課長、教育総務課 田上課長、  
学校再編推進室 西岡室長 藤居室長補佐、教育総務課 小笹主査

■会次第

1 開会

2 議事

（1）委員長の選任について

（2）教育振興基本計画等策定委員会の役割について

（3）阿南市立小・中学校再編に係る取組について

（4）その他

■1 開会

【委嘱状公布】

【委員紹介】

【教育長挨拶】

■2 議事

【議事1 委員長の選任について】

委 員 長：箕島弘二委員

副 委 員 長：笠原高志委員

【議事2 教育振興基本計画等策定委員会の役割について】

（事務局） 教育振興基本計画等策定委員会の役割について説明

【議事3 阿南市立小・中学校再編に係る取組について】

（事務局） 阿南市立小・中学校再編に係る取組について説明

（委員長）

どうもありがとうございました。今ご説明いただきました内容について、何かご意見、ご質問等ございますか。何でも結構です。

（清原委員）

先ほど見せていただいた三好市の事例なのですが、再利用している学校というのは全部耐震基準とか満たされた校舎を使われているのでしょうか。

(事務局)

完全に耐震基準が満たされているかということについては、若干満たされていない部分もあるかもしれません。そのあたりは、安全が確保されたところを利用しているというような工夫はされていると思いますが、完全な耐震化というのは不明です。

(田中委員)

再編実施計画書の第3章「再編実施計画」の中で、策定方針の二つ目に「小中一貫校、義務教育学校等の導入検討を行い、併せて学校施設の整備方針を検討します」とあります。義務教育学校と小中一貫教育とは性質が違うと思いますが、県下で、義務教育学校の方式をとっている市町村はありますか。

(事務局)

県内で、義務教育学校という形式のところは、確かなかったと思います。先月、隣的那賀町に行ってきました。那賀町では木頭学園があり、小中一貫校を実施していますが、そこでも義務教育学校という形態にはなっていなかったと思います。

(田中委員)

ありがとうございます。小中一貫校については、以前の会議などで、教育委員会が椿町中学校の校区で、これに類するようなものをしているというような説明を受けたことがあるのですが、阿南市として、その小中一貫校教育を椿町中学校区でしていたという認識はあるのでしょうか。

(事務局)

それにつきましては、椿地区で行っているチェーンスクールというのが小中一貫教育と言えると思います。ただし、椿地区で行っているのは、小学校と中学校でそれぞれの建物が分離して、離れたところにあり、例えばITの技術などを使って連携しているという形になっています。よくあるのが、同じ施設の中で小中一貫教育をするというようなやり方もあります。

ご質問にありました椿町地区のチェーンスクールは、小中一貫教育だと思います。

(田中委員)

それは、ただ単に運動会とか行事を小中学校が協議しながら行うというだけではないのですね。

(事務局)

はい。運動会など以外でも、教育学習活動でチェーンスクールというのを活用されていると思います。

(岩川委員)

先程、廃校になった学校校舎の利活用の先進地をお示しいただき、既に実際にされているところを見学されてきたということでした。私も那賀町にいましたので、そのような事実も知っています。具体的に今、ロードマップを説明して頂いた時に、「新しい学校」というのが出てきましたが、阿南市教育委員会としては、新しい学校というのはどのような像をイメージとして持たれているのでしょうか。学校再編したときに、どのような感じをイメージされているのかということをお聞かせいただけますか。

(事務局)

新しい阿南市の教育というものをこれから示していかなければいけないのですが、先ほど言いましたように、現在のイメージというものが抽象的な部分が非常に大きく、これから具体的なものにしていかなければなりません。

この教育振興基本計画等策定委員会は、阿南市の教育振興基本計画の策定も関係する委員会になっています。学校の再編の計画だけではなく、本体の教育振興基本計画の中で、阿南市の学校教育をどのようなものにしていくかということも考えなくてはいけないので、これは進行中であるという話になるのですが、新しい学校像をこれから考えるという段階です。

具体的なイメージというのは、今のところありません。ただ、例えば、先程ありました小中一貫教育というような形で、学校の再編対象校の中で、小中一貫教育を目指す学校が出てくるようになれば、それに応じたような教育モデルの提示も必要になると思いますので、そういうことにも取り組んでいきたいと思えます。

(清原委員)

小中一貫のイメージ像として、言葉の定義でそのまま考えると、小学校と中学校が一緒に校庭・グラウンドを使って過ごすというイメージになりがちですが、場合によっては、先程の椿町の小学校と中学校は一応別々の建物だけれど、色々な試みによって、小中一貫教育というようにしているとも説明がありました。今回、再編するにあたって、いわゆる物理的に一つの場所に小中を集めたものを作っていくという基本スタンスなののでしょうか。その場合、広さとか、可能な場所が凄く限られてくる気がするのですが、そればどのように考えられているのでしょうか。

(事務局)

小中一貫教育には色々なスタイルがありますから、これからそれを示していきますが、一般的によくあるのが、同じ敷地内で小学校、中学校が同じ建物に入っているというのが一般的なイメージになると思います。

今見て頂いている資料は、昨年度の住民説明会の時に使った資料なのですが、このように小中一貫教育、義務教育学校というのがあります。例えば、木頭学園もそうですが、チェーンスクールであるとかは、小学校1年生から6年生までと中学校1年生から3年生までというのと、義務教育学校になると、1年生から9年生までというような形になります。こうなると同じ建物内で学習、教育が行われた方が良いと思えますので、このような形の義

務教育学校を提示する可能性というのも十分あると思います。その場合、敷地の問題であるとか、ハード的な問題を解決しなければいけないという課題が出てきます。

#### (清原委員)

その場合、恐らくこの再編の問題を議論していく中で、結構大きな要素だと思います。

1年生から9年生までのエリアも考えないといけません。阿南一中、阿南二中がありますが、例えば、この建物であれば周りの児童・生徒を集めてきてもキャパがありますとか、児童生徒の数字をもとに、今この地区で1年生から6年生までが何人で、7年生から9年生が何人なので、後これぐらい建て増しをすれば大丈夫ですとか、しかも建て増しするスペースがありますとか、ある程度具体的なものを出してもらわないと、たぶん議論にならないと思います。

#### (事務局)

本当に清原委員さんのおっしゃる通りで、イメージだけでは進みませんから、そのときには、具体的にこういうことをすれば実現できるということはお伝えしなければいけないと思っています。

#### (笠原委員)

先ほど説明いただいた「実施スケジュール」の「パターン（合意形成）」で2つのパターンがありますが、なぜ2パターンあるのですか。分けないといけない理由はありますか。

#### (事務局)

2パターン提示させていただいていますが、これは少し説明が足りませんでした。

私たちが考えているのは、2つ目のパターンである、「実施計画（案）」、「住民説明会」を実施した後に、「実施計画」を策定し、この実施計画に基づいて「合意形成・再編決定」を進めていくという方法が取ればと考えています。

なぜこのような方法がいいかといいますと、1つ目のパターンであれば、「実施計画」を策定するまでの「合意形成」にあまりにも時間がかかったり、反対意見が多すぎて何も決まらない状態になるという可能性もあります。2つ目のパターンであれば、先に「実施計画」で再編対象校の案を示す段階にしておけば、そこから具体的に話を進めていくことも可能です。こちらの方が、スピード感があると思います。昨年度の住民説明会の時に、早く再編をしてほしいという地域、保護者の方もいらっしゃいましたし、再編反対という地域の方もいらっしゃいました。そういった人たちの意見を反映するのも、この2つ目のパターンの合意形成の方が良いのではないかと考えています。

#### (清原委員)

私も2つ目のパターンでいいと思うのですが、ただ「実施計画」を策定して、「合意形成」で色々な意見が更に出て来た時に、全く修正がきかないまま進んでしまうのか、もしくは大枠は変えられないけれど、この部分是对応できるみたいに、もう一度実施計画に反映されるのか、その辺はいかがですか。

(事務局)

それは、随時見直し等もしていく必要があると思います。色々な意見が出て、すごく重要な意見が出てくると、やはりそういう意見も尊重する必要があると思います。

(委員長)

それは、どの程度まで修正をかけられますか。AとBを統合する、CとDを統合する、反対があったので、AとD、BとCを統合というのもあるのですか。

(事務局)

大きな変更もありうるのではないかと思います。しかし、事務局としても、できるだけこの案であれば合意して頂けるであろうというような最善で、最適なものを提示していこうと思います。大きな変更を求められるような極端な計画に極力ならないように努めていきたいと思います。

(委員長)

できれば、先程私が申し上げたようなAとB、CとDを、AとD、BとCにするというのは、大変なので、そういうことが起こらないように、前もって場所とか、生徒が通うための利便性とか、そういうものを考えて納得できるような案を作っていて、その後どうしても難しい場合は、例えばスクールバスをこれだけ出しますとか、こういうことを実施しますとかのほうがいいのではないのでしょうか。最初決まったものをひっくり返すのは大変なので、なるべく最適な配置を考えるということが良いと思います。

(原田委員)

加茂谷地区から来ています。現在、吉井小学校の会長をしています。

加茂谷は大井小学校の休校を経験しているので、皆さんこういったことに関心が高いのですが、やはり加茂谷内でも意見が割れていて、全員100%意見が一緒になるとは思えないので、もし統合編制が決まった後に、学校の選択制というのは阿南市では実施する計画はありますか。

(事務局)

今現在、学校選択制を導入するかというのは決定していませんが、検討の余地はあると思います。最近、徳島県内で学校選択制をしているところがあるかどうかについて調べました。例えば、徳島市であれば、かなり大きな規模の学校があり、少し規模が大き過ぎるので、その学校のお子さんが隣接した学校に通えるというような選択制を導入しているというのが分かりました。今後研究をしながら検討していこうと思います。

(田中委員)

今の問題についてですが、阿南市では学校選択制を採用しているということを文章などで公表はしていないと思うのですが、現実には、吉井小学校から違う小学校へ行きたいといって入学されたり、中学校を加茂谷中学校ではなく、違う近辺の中学校へ行かれたり

している方はいると思います。阿南市では、行きたい学校へ保護者が申請をすれば、行くことができるのではないのでしょうか。

#### (事務局)

今行こうとしている学校に部活動がない場合、別の学校にあり、そこを希望するという保護者の方がいます。それ以外でも何か理由があって、別の学校を希望されて、校区外の学校に通学している方もいます。それは、選択制という形ではないのですが、そういう申請をされて通学しています。

#### (田中委員)

「阿南市立小・中学校再編基本計画」の中の「学校再編の方法」1において、「吸収統合ではなく、新設統合を検討する」と書かれています。一方、2において、「再編統合後場所及び施設については、既存の学校敷地と校舎・設備を有効活用することを優先的に検討する」と書いていますが、この1と2は相反することではないかと思うのですが、具体的にはどういうことでしょうか。

#### (事務局)

ご質問については、阿南市立小・中学校再編基本計画の概要版にも「学校再編の方法」として掲載しています。そこでは、「吸収統合ではなく、新設統合を検討することとします。したがって、新設統合の場合は、新たな学校として校名・校章・校歌を制定します。また、小中一貫教育の導入も検討の対象とします」とあり、後「既存の学校敷地と校舎・設備を有効活用することを優先的に検討します」ということで、事務局的には矛盾はないと考えます。ただ、昨年度の住民説明会の中でもよく誤解されたのが、「新設統合」という言葉が、新たな学校校舎を建てるとか、新たな学校ができると受け止められたことがあります。これは、2つの学校が一緒になって、一方の場所にはなるけれど、もう一方の使わなくなった学校に通っていた児童生徒さんや地域の方々が、自分たちは吸収されたという思いを払拭するという意味合いもあります。

#### (委員長)

AとBが一緒になったときに、A中学校ということではなく、AB中学校もしくはC中学校と名付けて、どちらか一方が吸収されたということにならないようにという意味ですね。要は、うちは吸収された、学校がなくなったというのではなく、うちの学校は存続して、新たな学校になったというイメージを持たせるという意味合いですね。

#### (委員長)

先程、小学校と中学校の統合という話のございましたけれど、やはり市民の皆さまに対しては、その効果がどういう点にあるのかを明確にさせていただければと思います。新たに人数を合わせてこうなるというのではなく、小学校と中学校が一緒になるとどういう良い点があるのかということを表に出していただければと思います。

何かメリットを活かせるような形で、プラスアルファがあると、それをつくる時にやりやすいと思います。

#### (事務局)

メリットで言えば、例えば小中一貫教育であれば、他の自治体の事例を調べていく中で、英語教育、外国語教育がありました。例えば小中一貫になれば、小学生の教科担任で英語を教えるのに加えて、中学校の先生方が英語を小学生に教えることができるとか、他の教科でも専門的な中学校の先生が小学生に教えることができるようになるというような話はお伺いしたことがあります。

#### (原田委員)

吉井小学校では、加茂谷中学校の数学の先生が教えに来てくださったり、小学校も教師がすごく足りていない状態なので、時短の先生で音楽専門の先生が全学年を教えてくださっていたり、中学校の教育にすごく似たような状態の指導を既に吉井小学校で行ってくださっているので、そういったことは利点として小学校の保護者は感じていると思います。

#### (清原委員)

これから実施計画を作って、合意形成をしていくことになると思うのですが、合併して新しい学校を作りますという中で、メリットというか、今までなかったこういうことができるようになりますというようなものを、積極的にこの段階から考えて、それを言葉にできる状態に是非していただきたいです。

例えば、先程の教育方法だって、それこそ専門の先生が来て教えるようになりますとか、スポーツにしても、外部のスクールと連携して、それも部活動の一環になりますとか、それを仕組みとして、用意してもらいたいと思います。可能性としてできるではなくて、もう仕組みを作りましたっていう状態で提案してもらえると、恐らく対象になる保護者の方たちも前向きに統合再編を捉えることができるのではないかと思います。

場所も大切ですし、そのハードウェアも大切ですが、それ以外のソフトウェア的なところで、「もう既に決めています」みたいなところまで、ぜひ考えてもらえたらなと思います。

#### (事務局)

人に説明するときには、やっぱり具体的なことであるとか、説得力というのがすごく大切だと思います。ですから、清原委員さんのおっしゃられた意見を参考にさせていただき、よりよい実施計画になるように、努めていきたいと思っています。

#### (片山委員)

私が公募委員に応募したのは、子どもが中心の学校の政策を取って欲しいっていう気持ちで公募しました。集まっている大人たちの気持ちもそうですが、子どもたちの気持ちも、例えば、実施計画を進めていく上で、現状の学校の教育の受け方についてどう思っているのかという子どもの意見とか、ワークショップであったり、そういう子どもたちが考える機会を作っていただきたいなと考えています。

(事務局)

今、子どもたちの意見を尊重しなければいけないということが言われています。とても大切なことで、子どもたちが当事者になりますので、何らかの形でそういった意見も反映できるようにできればとは思っております。

(原田委員)

子どもたちにとってという話が出たので、大人よりもおそらく合併統合っていうことに対して想像が全くついていない状態だと思うので、より具体的なイメージとか、例をたくさん子どもたちにも見せて表していただきたいと思います。

(委員長)

合意形成の方法については、二つ目の方法で行くということで、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

本日はいろんな貴重な意見をいただきまして、どうもありがとうございます。限られた時間でございますが、委員の皆様方からできるだけ多くの意見をいただいて、今後に繋げていきたいと思っております。

最後に委員の皆様方から、お一人ずつ、小学校・中学校再編について、ご発言をお願いしたいと思います。

(笠原委員)

児童生徒さんとの交流も大切ですし、私も高校の再編統合を経験してきたのですが、賛成反対もある中で、今後合意形成をどう作っていくかというのが確かに難しいところですが、地元の方の意見をよく聞いて最適な方法を見つけていただくというのが一番いいのかなと思います。また、廃校になった学校もこの地域の核であったところなので、きちんと利用をしていくし、そういった配慮というのをしていかなければいけないのかなというふうに思いました。

(西委員)

特別支援の方の意見とか、現状を踏まえて話をしたいと思っております。

小学校、中学校には支援学級があって、特別な支援が必要な子どもたちが学んでいると思います。教育支援委員会を経て、支援学級に行くのか、本校のような特別支援学校へ行くのか、親も本人もすごく迷われていると思います。阿南市でも同じように、進路について特別なニーズを持っているお子さんや家族はとても迷っていると思います。小さなコミュニティだからうまくいった子どもたちが、違う大きな集団になると何かしら混乱はあるだろうと思われれます。統合していくという中で、かなり前からビジョンを見せてあげるのが、この子どもたちや家族には大切かなと思います。

先程部活の話も出ましたが、特別な支援を受けている方の療育であったり、放課後デイサービスとかを使っている方がほとんどです。その利用のことや契約のこともあるので、



こういう方向で進んで行きますというのを急にではなくて、少し前からお示しいただくのが親切ではないかなと思います。

#### (岩川委員)

最初に、新しい学校の姿を明示してくださいという話をさせてもらったのですが、その後、それぞれの委員さんからの質問や、それからお話があったりする中で、そういった姿が少しずつ出てきたのではないかなと思います。

基本方針の中にも、「地域社会全体が夢と希望や誇りを持って」というふうに書かれていますし、それから、吸収合併されたのではないと、学校はあるというようなことが強く押し出されるのであれば、新しいチャレンジも含めて、具体的ないろんな明るい未来が想像できるような姿をお示しいただけたらいいかなと思います。使わなくなった校舎のこととか、後のことを先に考えられているようですが、どのような学校にしていくかというようなことも含めて大切だと思います。

やはり地域の人たち、通うであろう児童子どもたち、支援してくれる保護者の方等が、何か楽しそうだなとか、こんな学校で地域が良くなりそうだなというように、希望が持てるような学校にしていただけたらいいかなと思いますし、教職員も力になればいいかなと考えています。

#### (川尻委員)

将来的な少子化とか、施設のことなども含めて考えていくと、学校再編についてはもう当然進んでいく道だと思います。私も伊島の小学校・中学校に勤務した経験もあって、いわゆる過小規模の学校の子どもたちは、大きなところで学びたいとか、そういう希望もあるし、いろんな行事も制限なくできるし、幅も広がるので、そういう子どもたちの幸せを考えるなら、色々な活動ができるところで学べるという幸せも大事だと思います。一方で、先ほど支援学校の先生も言われていたように、大きな学校、あるいは大人数で学ぶのがしんどいという子も当然いるだろうと思うので、選択ができたりとか、幅広い柔軟性のあるような学校再編ができれば、より一層いいのではないかなと感じています。

#### (稲村委員)

先ほど出たご意見で、当事者である子どもの意見を聞くというところで、片山委員さんも言われていましたが、今急に子どもたちに再編の話をして、何のことも全然ピンと来ないと思うので、ワークショップをして、子どもたちに考えさせるというのは、すごくいいなと思いました。

特に小学生とかよくわからないと思うし、保護者の考えが影響してくると思います。ですから、住民説明のときに、統合再編のメリットをたくさん伝えていただいて、保護者の方にその再編したメリットが伝わって、反対意見の方でさえもメリットが伝われば、気持ちが大きく動き出すと思いますので、メリットをたくさん説明していただけたらと思います。

#### (原田委員)

先ほども言いましたが、加茂谷地区の代表として来ています。

加茂谷地区は、やはり大井小学校の休校から過疎化がすごく進んでいるので、危機感を持って移住を促進しております。今の地元が気に入って住んでいる方、大人数の学校に行きたい方など、すごく意見が分かれている状態です。学校を残したいと思っている方が若干多いので、地域の方が学校に入ってフィールドワークですとか、すごく特色のある学校にしようという働きに力が入っています。ですから、地元は地元で活気を作るために学校は残してほしいですし、選択制を使って外に行く子もいるでしょうし、みんなが幸せになれるような統合編制ができればと思っています。地元の意見をまとめて運ぶことができればと思っています。

#### (片山委員)

先ほども申しましたように、地域の意見もそうですけれども、まず子どもたちの意見を聞いて、我々の意見も反映しながら、岩川委員がおっしゃられたように、より良い、明るい未来のある学校へ行きたいと思うような、そういう学校再編にしていってほしいと考えております。

#### (清原委員)

たくさん意見を言わせていただいたのですが、すごく良くなるというイメージを具体的に伝えるようなものを作り上げて、合意形成とか、住民説明会のときに説明ができればいいなと思います。

先ほど言ったスポーツとかに関しても、ものすごく色々なスポーツがあって、eスポーツだって、昔はただのゲームでしたけど、今やスポーツになっています。新しくなったからそれを全部しろとは言いませんが、そういうものをやりたいっていう子どもができたときに、柔軟に対応して、それも一つの部活としてやっていくということだったり、その結果良い成績が残ったのであれば、それがまた更に高校とか大学に進学するときの何かプラスになるような仕組みを、とにかく作っていただけたらなと思います。

あともう一つ、私はPTAの会長もしているのですが、色々な学校の設備をどうしてほしいという要望がたくさん上がってきていると思うのですが、なかなか通りません。その中の一つの理由として、どうせ統合するからそのまま放置するみたいな気持ちがあってはならないと思います。もちろん統合は何年か後に行われるでしょうが、今通っている子どもたちが、例えば私の子どもは小学校に行っていますが、体育館の切れている照明をなかなか直してもらえないとか、うちに限らずたくさんの要望がある中で、そこに予算をなかなか付けていただけないという現状です。その辺の現在の学校にも色々やってほしいところをお願いしたいと思います。

#### (岡部委員)

保護者の立場としては、明るいビジョンとか、明確なビジョンというのがちょっとまだ正直浮かんでいないので、子どもたちも含めて、我々保護者にもはっきりビジョンが見えるようなものを何か今後ご提案いただいて、そこからまた住民説明会とかで色々な意見を是非吸い上げていただいて、円滑な合意形成に向かっていただく方がいいのかなという気持ちは強くあります。是非、意見を小さいところまで拾っていただければと思います。

#### (田中委員)

現在私は、加茂谷と福井の公民館の方へ子育て支援に出たりしています。加茂谷の地域で、すごく強硬な意見をたくさんお持ちの方がいましたが、何年か説明会をして、そして経過してきた中で、地域の方々、特に学校を中心に考えていた年配の方々の意見がどんどん変わってきたように感じられます。学校がなくなることに対してのご理解とかが、ずいぶん変わってきたと思います。ですから、統合したらこんなに良いメリットがあって、こんなところへ子どもたちは行くのだというような、地域に明るい希望を与えてあげてほしいなと思います。

私は、大井で勤務したことがありますので、大井がなくなったときはとても寂しかったです。本当に立派だった大井小学校の校舎とか、運動場、それから体育館などが有効利用されていなかったなというのは思います。今回は、なくなってしまう学校も色々と教育委員会が有効利用しようとお考えのようなので、少しほっとしています。地域の方々にとっては新しい学校ができ、そして我々の学校はどういうふうに利用されていくのかというのも、地域の方々の一つの夢だと思います。難しいと思いますが、両方を兼ねて、これから教育委員会としてお考えいただきたいと思います。

#### (委員長)

再編となると、何か縮小するという、あまり良くないイメージもあるのですが、統合して、より良い教育ができて、明るい未来があるというようなことが、子どもたちに分かるような、そういう計画を作っていただければと思いますので、よろしくお願いします。

#### 【議事4 その他】

#### (事務局)

次回の策定委員会についての連絡

#### ■ 3 閉会